★「好評記事のプレゼント」企画　3・4・9・10面

The SEIKYO GIFT　セイキョウ　ギフト

インタビュー　生涯学習と家庭教育を巡って

“好きな自分”になるために学ぶ

歌手・教育学博士　アグネス・チャンさん

歌手、エッセイスト、さらにはユニセフ・アジア親善大使として、多彩な分野で活躍するアグネス・チャンさん。教育学博士でもあり、大学で教えるほか、著書や講演で、生涯学習や家庭教育の重要性について発信を続けてきました。SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」をテーマに、学び続けることの意義、家庭教育で大切にすべきことなどを語ってもらいました。

（取材＝澤田清美、木村輝明、4月11日付）

――アグネスさんは、歌手として活動をしながら大学を卒業し、1989年にはアメリカの名門スタンフォード大学に留学、94年に教育学博士号を取得しました。結婚・出産を経て、30代半ばで留学を決意されたきっかけは何でしたか。

一番大きなきっかけは、「自分は知識が足りない」と痛感したことです。

1987年、初めての出産後、赤ちゃんだった長男を仕事場（テレビ局のスタジオ）に連れていったことがきっかけで、大きな論争が起きました。

（いわゆる「アグネス論争」。子連れ出勤の是非を巡り、批判派・擁護派が入り乱れて、さまざまなメディアで賛否両論が繰り広げられた）

でも当時、私は働く女性、母親が社会の中で自由に生きていくために何が足りないのか、全く分からなかったんです。大学で児童心理学は専攻しましたが、女性差別の問題や歴史、また世界の状況も知りませんでした。

そんな時、たまたまスタンフォード大学の教授とお会いする機会があり、「この論争を無駄にしないためにも、私のもとに来て勉強してはどうか」と誘われたんです。子どももいるし、仕事もしているのに、海外への留学――その上、博士課程なんて、すごく遠い話のように感じました。

でも夫から、「落ちると思うけど、とりあえず（試験を）受けたら気が済むんじゃない？」と言われて、大学に応募をしたところ、運良く試験をパスできたんです。ところが、留学の直前になって、今度は次の子がお腹にいることが分かって……。これは無理だなと思ったのですが、教授から「アメリカでは子どもを産んで、大学に通っている人はいっぱいいますから」と言われました。

さらに「この論争を、ただの論争で終わらせるのではなく、後に続く芸能人や、社会で働く女性の道を開くきっかけにするためにも、あなたが頑張らないといけない」と言われたんです。胸に響きました。

実際に大学へ見学に行ったら、妊娠中の学生や、3児の母親という学生もいました。大学内のさまざまな保育施設にも案内され、安心しました。

何より、スタンフォードのような素晴らしい大学で学べるチャンスなんて二度と来ないと思い、勇気を出して留学を決断しました。

アグネスさんが学んだアメリカの名門スタンフォード大学のキャンパス　©アフロ

人と比べない

――とはいえ、3歳のお子さんを連れ、赤ちゃんを身ごもった中での留学は大変だったと思います。

妊娠8カ月の状態でアメリカに行きました。向こうで出産をしたんですが、体は回復していない上に、3歳の子どもがいるというのは、本当に大変でした。

まだ母乳をあげていた時期ですから、授業に行く時は子どもを保育所に預け、授業が終わると、走って子どもを迎えに行きます。そして校内の目立たない場所で授乳して、再び子どもを預けて授業に参加するという繰り返しでした。

広いキャンパスを走ってばかりいたので、足に筋肉がすごく付いて、「あなたはアスリートですか？」って言われたりして（笑）。

スタンフォード大学は課題の量がとても多いんです。子どもを寝かしつけてから取りかかりましたが、朝までやっても終わらない。朝になると、またすぐ子どもたちを預けて、学校に行くような毎日でした。ほとんど眠れないような日もあったんですが、アドレナリン全開で、必死に頑張りました。

学生の仲間たちにも助けられました。日曜日には子どもたちを預かってくれて、「その間に図書館に行け」って言うんです。子連れだと、図書館で研究の資料を集めるのは大変ですから。3、4時間で図書館を走り回って資料をコピーして。本当に助かりました。

留学中は夜もほとんど眠れない状態でしたが、つらいとは思いませんでした。せっかくのチャンスをいただいたからこそ、無駄にしたら、日本で待ってくれている人たちに申し訳ない。必ず学位を取って帰らなきゃという気持ちでした。

それに子どもたちがいたから、他の人は経験できないこともたくさんできたし、めげずに最後まで頑張れたんです。

――「人生100年時代」ともいわれる今、社会人になってから、あるいはシニア世代になってから大学などで学ぶ人も多くいます。「生涯学習」の意義について、どうお考えですか。

私は、学ぶことに“適齢期”なんて思った時に、学ぶべきだからです。社会を動かすものは何かというと、やっぱり一人一人の「夢」だと思うんです。やりたいことがあるから頑張る。だから社会が動き、世界が動いていく。

年を重ねると、夢を諦める人が多いです。生活のために、現実のために、子育てのために、いろいろな苦労をして、自分の思いを抑え込んでしまう。そうなると、一番好きな自分、あるいは、なりたかった自分の姿を思い出すのも大変です。

勉強は本来、好きな自分になるためのものなんです。自分の夢を実現するためにあるんです。小さなことでも、大きいことでもいいんです。とにかく学び続ける。

外国語を勉強して旅行したいという友達が、私の周りにいるんですけど、それもいいと思います。外国に行って言葉が通じた時は、本当にうれしいですから。私も、初めて日本語が通じた時のうれしさは、今でもはっきり覚えていますよ！

4面に続く

アグネス・チャン　歌手、エッセイスト、教育学博士。香港生まれ。1972年「ひなげしの花」で日本デビュー。89年、米スタンフォード大学教育学部博士課程に留学し、94年に博士号を取得。翌年、日本ユニセフ協会大使を務め、現在、ユニセフ・アジア親善大使。『終わらない「アグネス論争」』（潮新書）、『スタンフォードで学んだ三八の息子を合格させた50の教育法』（朝日新聞出版）など著書多数。

心停止の約7割が自宅※で発生。
ご家庭での備えに、「セコム・MyAED」。
出典：令和4年版 救急救助の現況（総務省消防庁）

心臓に持病があるけど元気に暮らしたい
子どもにも使えるから安心
いざというときは、私が家族を助けたい

セコムが提供する、家庭用AED。

5つの特長
●ひと目でAEDとわかるデザイン
●ご家族の「救急情報」をお預かり
●24時間いつでも看護師に電話相談
●オンラインでAEDの状態を管理
●「簡易講習キット」で練習が可能

信頼される安心を、社会へ。SECOM

使い方は簡単！3ステップ操作

1 フタを開けると自動的に電源ON
2 フタから電極パッドを外し、胸部に貼る
3 点滅するボタンを押して電気ショック

―ご家庭でも、救える命があります。―

セコム・MyAED　レンタル料 月額（1台あたり）2,640円（税込）

■保証金／台（非課税）20,000円
■AEDレンタル期間 5年：5年以降は1年ごとの自動更新、最大5回（最長10年）まで契約可能。
●AEDは救命処置のための医療機器です。AEDを設置したら、いつでも使用できるように、AEDのインジケーターや消耗品の有効期限など日ごろから点検することが重要です。 ●バッテリー、電極パッドは消耗品です。 ●電極パッドは使い捨てです。再使用はできません。使用期限内の確実な交換が必要です。 ●定期交換用消耗品一式（バッテリー、電極パッド）を交換時期ごとに送付いたします。 ●AEDに不測の事態が発生した時や障害時、廃棄時には、セコムにご連絡ください。 ●添付の取扱説明書、AEDの添付文書をお受け取りになり、必ずお読みください。 ●AEDは高度管理医療機器および特定保守管理医療機器です。 ●未就学児（小学生以上が対象のこども）には、未就学児モードに切り替えて使用してください。 ●販売者：日総研外科医療部 ●AED-3100 カルジオライフ ●医療機器承認番号：227008ZX00187000 ●製造販売業者：日本光電工業株式会社 東京都新宿区西落合1-31-4

資料請求だけでも構いません。気になることは何でもお電話を！
0120-756-892
〈受付時間〉9:00～18:00（年末年始を除く）　セコム AED　詳細・個人情報の取扱いに関しては、HPをご覧ください。